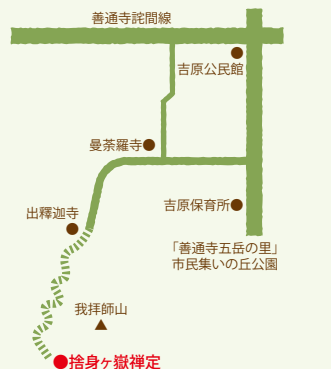




眼下にはすばらしい景色が広がります。
弘法大師空海が幼少期に身を投げた伝説が残る場所。



雲に覆われると、水墨画の様な景色です。



- 吉原町979
- 出釋迦寺から登山道を登って徒歩約40分
- 問い合わせ ☎ 0877-63-0073

「天空の鐘」が鳴り響く奇跡の場所

出釋迦寺から我拝師山の山道を1.8kmほど登ると、山頂近くに出釋迦寺の奥の院、禅定ぜんじょうがあります。さらに100mほど登った場所が、弘法大師空海が7歳の時に身を投げたという伝説の捨身ヶ嶽しゃしんがだけです。そそり立つ絶壁の上に石の護摩壇ごまだんと稚児大師像がまつられています。この捨身ヶ嶽への登山道は世坂せさかと呼ばれ、旧暦15日には県内外から奥の院に上る信者でにぎわいます。登山道の道路脇には、香川県の保存木であるヒノキの大樹がそ

びえます。幹囲3.3m、樹高23m、枝は東西に16.8m、南北に13mも広がります。根元には大きな石の地蔵が置かれ、小石が積み上げられています。先に進むと、道の左側には「柳の清水」があり、登山者の喉を潤してくれます。そして山門にたどりつくと、眼下にはすばらしい景色が広がります。

この絶景を見ながら鐘をつくことができる鐘楼は、「天空の鐘」と呼ばれるようになりました。山道をたどり、一度は響かせてみたい山のお寺の鐘の音です。



夕方には街も海も山もオレンジ色に染まる。絶景と「天空の鐘」が待っています。